

## 職場体験・福祉体験報告会

令和元年9月7日（土）

この後行われる報告会では、生徒たちの学びの成果を聞いていただき、未来を創る子どもたちにはどのような資質・能力が必要なのか、そのためにはどのような改善が必要なのか、保護者の皆さんと一緒に考えるための一助にしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、近年の研究によれば、AI（人工知能）の導入によって、子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就くとの予測や、今後10年から20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高いなどと言われています。生徒の皆さんが体験した職業も、10年後、20年後には、全く同じ仕事として残っているとは限りません。したがって、職場体験や福祉体験では、仕事の中身だけを学んできて、皆さんの将来には生かされないと思います。

ところで、皆さんは大人から、「自分のやりたいことを見つけて、夢や目標を実現できるように努力しなさい。」と言われたことがあるでしょう。その時の「将来の夢や目標」とは、「社会に出て、自分の個性を生かしながら、自分のしたい仕事をする。」という意味だと思います。しかし、皆さんの中には、「自分のしたい仕事ややりたい職業が、そんなに簡単に分かるわけがない、見つかるわけがない。」と思っている人も多いことでしょう。それは当然のことです。

仕事や職業は、元々は、社会の必要に応じて生まれたもので、「色々な個性の人間がいるから、それを生かせるようにするために様々な仕事や職業が作られた」わけではありません。「手紙を届けるのが得意な人がいるから、郵便局が作られたのではなく、手紙のやり取りが必要だから、郵便局が作られ、そこで働く人が求められている」のです。したがって、仕事や職業の数は、人間の個性の多様性（多さ）と比べて、遙かに限られたものであり、量的にも限界があります。

しかし、大人になればどんな人でも、一定の収入を得て、生活していかなければなりません。中学校、高校、大学などを出た後に、社会的に自立した生活を送るためには、いずれかの仕事や職業に就いて、一定の収入を得る必要があります。「学校は卒業したけれど、自分が本当にやりたい仕事が見つからないから就職しない。」という選択をすると、長期間にわたって安定した収入が得られないというリスクが生まれます。就職しない期間が長引くほど、医療や年金などの社会保障を十分に受けられず、年をとってから困る事態が生じるというのが、今の社会の実態です。

大野中の教育目標は、「自立と貢献」です。言い換えれば、「稼げる大人になる」ということです。たとえA Iが導入されても、A Iは所詮機械なので、人間にしかできない判断が必要な仕事は残ると思います。

そのためにも、皆さんには、中学生、高校生時代に、人間らしく「考える力、判断する力、表現する力」を高めてほしい。また、その基盤となる「知識や技能」を身に付けてほしい。高校や大学などを卒業したら、100%自分がやりたい仕事ではないかもしれないけれど、5年から10年くらいは勤めてから、その仕事を続けるかどうかを判断してほしいと思っています。なぜならば、社会人としてのキャリアの第一歩目は、自分の実力だけでなく、世の中の経済状況や運といった偶然によるところも大きく、その偶然を上手に生かして、与えられた仕事に真剣に向き合い、第一歩目のキャリアを固める、第一歩目の足場を固めることが大切だからです。

自立と貢献ができる大人、稼げる大人になるために、A Iにはできない「考える力、判断する力、表現する力」、そして人間力をこれからも高めたり深めたりできるように努力してください。